

1 この科目の構成について

教 科	公民科	科 目	現代社会	単 位	2単位
対象コース	カレッジ・情報ビジネス・美術	対象クラス	1年1組～7組		
使用教科書	改訂版 現代社会（数研出版）				
使用副教材	ニューコンパスノート政治経済2019（とうほう） 新版 最新 政治・経済資料集2019（第一学習社）				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	現代社会の様々な出来事から課題を見だし、民主政治において求められる価値や民主政治を基礎づける考え方などについて多面的・多角的に考察する。また、民主政治のあり方や民主政治における人間としてのあり方について、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ、政治を身近な存在として学習する。
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	1年次は政治分野を中心に学習する。（1）現代の国家と民主政治→民主政治における個人と国家のあり方について学習する。（2）日本国憲法と国民生活→憲法の基本原則と国民生活との関わりを学習する。（3）国際社会の動向→国際社会における日本の果たすべき役割や日本人の生き方を考える。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	（1）学校…独自の教材（サブノート）や教科書、資料集を使って学習する。発表やレポートを作成し、アクティブラーニングの技法を用いて、相互学びあいを導入する。 （2）家庭…日々の社会事象（政治・経済の動き）に関心を持ってほしい。新聞やニュースなどからの情報は、身近なモノとして記憶に残りやすいものである。また、単元ごとに課される予習課題と復習課題に取り組みことで、授業内容を確実に定着させる。

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何を使って評価するのか—
	（1）定期考査→年5回実施する。 （2）課題→通常課題と特別課題。 通常課題：各単元ごとの予習課題と復習課題を解答して提出する。年間に12回予定している。 特別課題：GW、夏休み、秋の連休、冬休みに、復習課題を解答して提出する。年間に4回予定している。 （3）授業への取り組み→授業中の積極的な発言、教科書・サブノートへの書き込みがなされているか。
評価における定期考査の割合	
	70%

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	（1） 関心・意欲・態度 授業内容から、現実問題との関わりを創造することができるか。 （2） 思考・判断 グラフや表をみて、そこから何を読みとることができるか。 （3） 技能・表現 用語を用いて、意図することを表現できるか。 （4） 知識・理解 定期考査の得点から、基本事項をどれだけ理解しているか。

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点				
期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	
1	4	第1章 個人の尊重と法の支配 第1節 民主政治の基本原則 1. 人間と社会のかかわり	・政治社会とは何か、現代民主政治を理解するにはどうすれば良いかを考え、さらに、政治社会の代表的な形態である国家の特質と機能について学習する。	●	●		●	
		2. 民主政治における個人と国家	・市民革命の勝利によって近代民主政治が獲得されたことを歴史事実をもとに説明し、社会契約説が民主政治の理論となったことを学習する。	●	●		●	
		5	3. 民主政治の原理と法の支配	・国家が自由や安全を守るためには、権力や機能が携わっていないなければならない。最善の国家である民主主義国家の成り立ちを学習する。 ・人権を尊重し、権力の専制化を防ぎ、優れた法による支配を確立するという考え方が民主政治の基本原則であるということを学習する。 道徳教育の実践。	●		●	●
			4. 世界の主な政治体制	・議院内閣制と大統領制の特質を、行政府の長の選出、不信任決議案、解散権、法案提出権などの点から比較対照しながら学習する。両者とも、主権者である国民の世論・監視が不可欠なことに注目させたい。 ・権力集中制の理念と共産党一党支配の実態とのズレの中で、権力集中制の動揺、崩壊が起きていることをソ連解体を例に学習する。	●	●		●
	7	第2節 日本国憲法と基本的人権 1. 明治憲法と日本国憲法	・日本国憲法がどのような過程で作られ、民主主義と平和をどのように規定しているかを学習する。 ・明治憲法と異なり、西欧の人権思想の伝統と思想を受け継いだ日本国憲法の根本原理とも言うべき考えが、日本の民主化に果たした役割が大きかったことを学習する。 道徳教育の実践。	●	●		●	
		2. 基本的人権の保障	・基本的人権の規定のうちでも中心部分を占める平等権や自由権がヨーロッパやアメリカの市民革命によって確立された権利であることを学習する。 ・社会主義国家においては完全な実現が第一目標である社会権が、資本主義国家では、達成はあくまで目標・理想であり、具体的な保障にまでは至っていないことを、裁判例を中心に学習する。 道徳教育の実践。	●	●	●	●	
			・情報化社会の出現や高度産業化社会の発達による環境破壊や公害の発生に伴う人権侵害をめぐって新しい人権保障の問題がクローズアップされてきたことを、身近な例を取り上げ学習する。 道徳教育の実践。 ・女性差別の実態を理解させ、また子どもの権利が必要となった背景を学習する。 道徳教育の実践。	●	●		●	
2	8	第2章 現代の民主政治と 政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 1. 国会のしくみと役割	・国会の地位と組織、権限について学習するとともに、実際の国会運営、つまり審議方法や議決の仕方などに着目しながら、その問題点を学習する。	●	●	●	●	
		2. 内閣のしくみと役割	・日本国憲法における議院内閣制の意義や、内閣と内閣総理大臣の権限について学習する。	●	●	●	●	
		3. 裁判所の役割	・三審制の仕組みや最高裁判所の地位と権限、違憲立法審査権などについて具体的裁判事例をもとに学習する。	●	●		●	
		10	4. 地方自治の現状と課題	・地方自治の本旨を学習する。また地方分権化に基づく地方自治の確立が、民主主義の基礎であることを学習する。	●	●	●	●

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知
3	11	第2節 政治参加と民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・政党の役割と意義について理解させ、55年体制崩壊後の政党の動向を踏まえながら、政党の特色と現状における問題点を学習する。 ・選挙の意義と新選挙制度の問題点を学習する。 ・世論の力が民主政治の中心的な役割を担っていることを認識させるとともに、政治的無関心の増大や世論に影響をもつマスメディアの問題点やあり方を学習する。道徳教育の実践。 ・行政機能の拡大による国会の形骸化が発生したことを学習し、民主化のために様々な制度が作られたことを学習する。 ・憲法前文および9条に示される平和主義の理念が、どのような国民的歴史体験を背景にしているかを学習する。 	●	●	●	●
		1. 政党の役割		●	●	●	●
		2. 選挙と選挙制度		●	●	●	●
		3. 世論の形成と現代民主政治の課題		●	●		●
		4. 行政の拡大と民主化		●	●		●
	5. 平和主義と安全保障	●	●		●		
	1	第3章 国際政治の動向と日本の果たすべき役割	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会が主権国家を単位として成立し、発展してきたことを学習する。また国際秩序を求める動きが国際法の成立につながっていることを学習する。 ・主権国家の誕生、勢力均衡方式から集団安全保障体制への変化について学習する。 ・国際連合の成立と仕組みについて、国際連盟との比較においてその特色を明らかにする。 ・第二次世界大戦後の東西対立が国際政治の基軸となっていたことを学習するとともに、ソ連の崩壊による社会主義国の変化と動向を学習する。 ・米ソ中心の国際社会から多極化が進んだ経緯を学習する。また、冷戦後のアジアの動きを日本との関わりにも注意して学習する。 ・平和主義の理念が国際情勢の変化の中でどのような問題を生じさせ、国内政治とどう関わってきたかを学習する。道徳教育の実践。 	●	●		●
		第1節 国際政治の動向		●	●		●
		1. 国際社会と国際法		●	●		●
		2. 国際社会と集団安全保障		●	●	●	●
		3. 国際連合の役割と課題		●	●		●
		3		4. 国際社会の動き	●	●	
				●	●	●	●
		●	●	●	●		

